



訪日外国人流動データ

# FF-Data

~Flow of Foreigners - Data~

北海道  
青森  
秋田  
山形  
新潟  
富山  
石川  
福井  
山梨  
岐阜  
長野  
静岡県  
東京都  
神奈川県  
茨城  
栃木  
群馬  
埼玉県  
千葉県  
宮城  
福島  
岩手  
宮城  
秋田  
山形  
新潟  
富山  
石川  
福井  
山梨  
岐阜  
長野  
静岡県  
東京都  
神奈川県  
茨城  
栃木  
群馬  
埼玉県  
千葉県  
宮城  
福島

FF-Data(訪日外国人流動データ)

利用の手引き

令和8年3月



## 目次

1. FF-Data(訪日外国人流動データ)の概要と利用上の注意 .....	1
1.1 データの概要 .....	1
1.2 データの種類 .....	3
1.3 分析できる内容 .....	3
1.4 利用上の注意 .....	4
2. FF-Data のデータ形式 .....	5
2.1 都道府県間流動表のデータ形式 .....	5
2.2 公表用データベースのデータ形式 .....	7
2.3 貸出用データベースのデータ形式 .....	10
3. データの利用例の作成方法 .....	12
3.1 流動量・入込客数に関する分析 .....	12
3.2 利用交通機関に関する分析 .....	25
3.3 旅行者属性に関する分析 .....	27
3.4 周遊に関する分析 .....	31
3.5 経年的な分析 .....	35
4. よくある質問・用語集 .....	41
4.1 よくある質問 .....	41
4.2 用語集 .....	42

## 1. FF-Data（訪日外国人流動データ）の概要と利用上の注意

### 1.1 データの概要

#### 1) データ作成の背景

国土交通省総合政策局では、平成 17 年度の第 4 回全国幹線旅客純流動調査以降、国際航空旅客動態調査の結果を利用し、訪日外国人旅行者の秋期 1 週間の国内流動表を作成・公表していましたが、同表では季節による変動や年間を通しての国内流動の把握は困難という難点がありました。

そこで、複数の既存統計調査結果を活用することで、より精度の高い訪日外国人の国内流動の把握が可能となる統計データ「FF-Data (Flow of Foreigners-Data：訪日外国人流動データ)」を作成し、平成 29 年 1 月に 2014 年分のデータを初めて公表しました。

#### 2) FF-Data とは

FF-Data は、訪日外国人の都道府県を越える国内流動状況を把握できるデータです。

訪日外国人を対象に、観光庁「訪日外国人消費動向調査」（1～3 月）、観光庁「インバウンド消費動向調査」（4 月～12 月）、航空局「国際航空旅客動態調査」のサンプル情報を元に、法務省「出入国管理統計月報」の国籍・地域別出国者数に一致するよう拡大処理を施すことで作成しています。

FF-Data では流動量の年間（四半期別）での分析や、流動と国籍など各属性の情報とを組み合わせた分析（クロス分析）、そして二地点間の流動のみならず入国から出国までの一連の流動の分析も可能となっています。

#### 3) データ作成手順の詳細

FF-Data の作成は、以下の手順により進めました。

まず、作成に必要な訪日外国人の「国内訪問地」、「出入国空海港」、「国籍・地域」、「旅行目的」、「利用交通機関」等を全国規模で収集している既存の統計調査としては、前述の国際航空旅客動態調査と訪日外国人消費動向調査があります（「利用交通機関」は国際航空旅客動態調査のみ）。

両調査は訪日外国人に対して出国空海港で聞き取り調査を実施しており、調査対象者の国内訪問地の訪問順の情報や属性情報等の共通する調査項目が存在しています。さらに、日本から出国する外国人の数は、法務省の出入国管理統計により出国空海港別、国籍別、月別に把握することが可能です。そこで、これら 3 つの統計情報を活用して FF-Data を作成することとしました。

具体的には主に以下の a. ～d. の処理を行いました。

## a. サンプルデータの集計

前述の通り、国際航空旅客動態調査及びインバウンド消費動向調査（旧 訪日外国人消費動向調査）には、調査方法や調査内容に共通する項目が存在するため、両調査で得られた統計データの分布等の差異を検証した上で、サンプルを合算して FF-Data の作成に用いました。これにより、10 万を超えるサンプル数を用いてデータ作成を行うことが可能となりました。

## b. 拡大係数の設定

拡大係数とは、得られたサンプル情報から全数を推計するための係数のことです。FF-Data では、出入国管理統計で把握されている出国空海港別国籍別四半期別の出国者数を、国際航空旅客動態調査とインバウンド消費動向調査（旧 訪日外国人消費動向調査）で得られた同セグメントのサンプル数で除して四半期毎の拡大係数を算出することを基本としました。そのため、流動量の年間値を集計する際は 4 つの四半期拡大係数を合計することで算出できる形となっています。

ただし、国際航空旅客動態調査のみで調査対象となっている出国空港については、サンプルが第 3 四半期、第 4 四半期しか存在せず、四半期拡大係数を合計することでの年間値の集計は不適切であると考えられるため、出国空海港別国籍別で年間の出国者数を同セグメントのサンプル数で除して年間拡大係数を別途作成しました。

## c. トリップの分割

国際航空旅客動態調査及びインバウンド消費動向調査（旧 訪日外国人消費動向調査）では、調査票の様式が国内訪問地を訪問順に記載する形となっているため、そこから作成される原データでは 1 サンプル毎に入国空海港から国内訪問地、出国空海港までの一連のトリップチェーンとして情報が整理されています。しかし、国内訪問地間の流動表作成にあたっては、二地点間の流動を示すトリップ毎にデータが整理されている方が集計しやすいため、一連のトリップチェーンを二地点間のトリップ単位に個々に分割してデータを整理しました。また、二地点間の流動だけでなく周遊に関する分析も可能とすべく、分割したトリップを一連のトリップチェーンに復元してトリップの順番を判別可能とするために、各サンプルに対してサンプル ID と各トリップに対して流動順にトリップ No を付与しました。

## d. 交通機関分担率の付与

国内訪問地間の移動の際の利用交通機関情報については、国際航空旅客動態調査では取得していますが、インバウンド消費動向調査（旧 訪日外国人消費動向調査）では取得しておりません。そのため、FF-Data では国際航空旅客動態調査で取得した OD（Origin Destination；起点から終点）別の交通機関分担率を全データに適用しました。なお、サンプル数の関係で、国籍別での設定が困難であったため、全国籍共通の交通機関分担率としています。

#### 4) その他

##### a. 調査対象範囲

外国人正規出国者

##### b. 地域等の区分

- ✓ 地域 : 47 都道府県 + 訪問地不明
- ✓ 空海港 : 個別空海港
- ✓ 国籍・地域 : 26 国籍・地域 + 無国籍
  - 観光庁の VJ 事業対象市場の 20 国籍・地域は、国単位（韓国、台湾、香港、中国、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、英国、ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、スペイン、米国、カナダ、豪州）
  - その他の国籍・地域は、6 つの地域区分（出入国管理統計のアジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア）
  - 無国籍は出入国管理統計の国籍区分で、26 国籍・地域に分類できない国籍
- ✓ 交通機関 : 8 区分（バス、鉄道、タクシー、レンタカー、その他の乗用車、国内線飛行機、その他、不明）
- ✓ 旅行目的 : 4 区分（観光・レジャー、業務、その他、不明）

#### 1.2 データの種類

- 都道府県間流動表  
国籍・地域別/交通機関別
- 公表用データベース  
国籍・地域別・性別※・年代別※・目的別・出国空海港別・発着都道府県別データ/  
交通機関別・目的別・出国空海港別・発着都道府県別データ
- 貸出用データベース（利用希望者に貸与）  
周遊ルート、旅行手配方法（団体/個人）、日本の滞在日数、訪問地の宿泊数等が分析可能

#### 1.3 分析できる内容

- 国籍・地域別の都道府県間流動量、都道府県別入込客数
- 国籍・地域別の出入国時の利用空海港
- 都道府県間の移動の際の利用交通機関
- 周遊ルート、泊数（貸出用データベースのみ）
- 訪日外国人属性（国籍・地域、性別※、年代※、目的など）  
※ 性別、年代の情報は 2017 年データより追加。国籍・地域別公表用データベース及び貸出用データベースのみ

## 1.4 利用上の注意

- 訪日外国人消費動向調査、インバウンド消費動向調査、国際航空旅客動態調査はいずれも、国内訪問地の情報はアンケート回答者の主観に委ねられているため、特に都道府県内あるいは近隣都道府県間等の短距離の移動が十分に把握できていない可能性がある点にご注意願います。
- また、例えば1回の旅行で、ある都道府県を2回訪問した場合は、都道府県間流動表ではその都道府県を2回訪問したこととして集計しています。そのため、都道府県別の入込客数を都道府県間流動表から集計する際には、同じ人を複数回カウントしている点にご注意願います。
- 国内訪問地間の移動の際の利用交通機関情報については、国際航空旅客動態調査では取得していますが、訪日外国人消費動向調査では取得しておりません。そのため、FF-Dataでは国際航空旅客動態調査で取得した OD 別の交通機関分担率を全データに適用しました。なお、サンプル数の関係で、国籍別での設定が困難であったため、全国籍共通の交通機関分担率としています。
- 2018年より、訪日外国人消費動向調査において統計手法を変更し、従来の全国調査に加え、新たに地域調査が追加されました。FF-Dataにおいても、2018年データよりこの地域調査の調査結果も加えて作成しているため、特に2017年以前のデータと比較し、経年変化の分析をされる際等には、ご注意願います。特に経年変化の分析をされる場合は、以下にご注意願います。
  - FF-Data全体としてのサンプルサイズが大幅に増加していること。(2018年データは2017年データの約2.5倍)
  - 地域調査では都道府県内の移動を把握していないため、FF-Dataでの都道府県間と都道府県内で流動量の精度に差があること。
  - 地域調査では旅行目的の調査区分が異なるため、これに合わせFF-Data上の旅行目的の区分も変更していること。
- 2018年データより、「北海道」について「道北」、「道東」、「道央」、「道南」に4分割しています。これに関しては、以下に留意する必要があります。詳細については、巻末の参考資料もご参照ください。
  - 出発地、目的地が北海道であるサンプル中、道内市町村情報が不明であるサンプルが含まれているため、4分割できず、出発地、目的地を「道内不明」としているデータがあること。(「道内不明」データを4区分が判明しているデータで按分することは可能。)
  - 複数の項目を組み合わせたクロス分析など、集計区分を細分化した場合、対応するサンプル数が十分に確保されていない恐れがあること。

### 【貸出用データベースのみ】

- 国際航空旅客動態調査、訪日外国人消費動向調査は、いずれもサンプル調査であるため、以下の可能性がある点にご注意願います。
  - 周遊ルートに関して、ルートによってはサンプル数が不十分であること。
  - 宿泊の分析に関して、国籍・地域、訪問都道府県によっては宿泊数が極端に長く、拡大係数が大きなサンプルが存在すること。

※性別、年代の情報は2017年データより追加。また、国籍別の公表用データベースのみに付加しているため、交通機関別の分析や貸出用データベースのみの情報(周遊ルート、訪問地の宿泊数等)と組み合わせる分析は不可。

## 2. FF-Data のデータ形式

### 2.1 都道府県間流動表のデータ形式

都道府県間流動表は、訪日外国人の年間の国内での移動を OD 表の形で整理したデータです。OD 表は、「入国空海港から最初の国内訪問地」、「国内訪問地間」、「最後の国内訪問地から出国空海港」の年間の流動が示されております。2 地点間の移動に着目しているため、入国空海港→出国空海港間の流動は集計の対象外としております。

OD 表は、国籍・地域別と交通機関別の 2 種類がありますが、データ作成上の課題 (1.13)d 交通機関分担率の付与を参照) から国籍・地域別交通機関別の OD 表は作成しておりません。

なお、本データは、サンプルに付与された拡大係数を都道府県・出入国空海港単位で集約して OD 表に整理したデータです。

(2024 年)

		国内訪問地(目的地)					出国空海港					①+③ 合計 (内々除く)	②+③ 合計 (内々含む)			
		1	...	13	...	99	① (内々除く計)	② (内々含む計)	101	...	201			...	900	③ 出国空海港計
		道北	...	東京	...	不明			成田(空港)	...	博多(海港)			...	その他	
	北海道	...	東京都	...	不明			千葉県	...	福岡県	...	不明				
(国内 出発 地)	1	道北	北海道													
	...	...	...													
	13	東京	東京都													
	...	...	...													
	99	不明	不明													
④	訪問地計(内々除く)															
⑤	訪問地計(内々含む)															
入 国 空 海 港	101	成田(空港)	千葉県													
	...	...	...													
	201	博多(海港)	福岡県													
	...	...	...													
999	不明	不明														
⑥	入国空海港計															
④+⑥	合計(内々除く)															
⑤+⑥	合計(内々含む)															

(2018年～2019年・2022～2023年)

		国内訪問地(目的地)					出国空海港				①+③ (内々除く) 合計	②+③ (内々含む) 合計
		1	13	99	①訪問地計 (内々除く)	②訪問地計 (内々含む)	101 成田 (空港)	201 博多 (海港)	900 その他	③ 出国空海港計		
(国内 出発 訪問 地)	1 道北											
	...											
	13 東京											
	...											
	99 不明											
	④訪問地計(内々除く)											
	⑤訪問地計(内々含む)											
入 国 空 海 港	101 成田(空港)											
	...											
	201 博多(海港)											
	...											
	999 不明											
	⑥入国空海港計											
	④+⑥合計(内々除く)											
	④+⑥合計(内々含む)											

(2014年～2017年)

		国内訪問地(目的地)					出国空海港				合計
		1	13	99	訪問地計	101 成田 (空港)	201 博多 (海港)	900 その他	出国空海港計		
(国内 出発 訪問 地)	1 北海道										
	...										
	13 東京										
	...										
	99 不明										
	訪問地計										
入 国 空 海 港	101 成田(空港)										
	...										
	201 博多(海港)										
	...										
	999 不明										
	入国空海港計										
	合計										

※2018年以降のデータにおいては、都道府県内の流動が十分に把握できていない可能性があるため、以下の変更を行っております。

- 都道府県内々の流動を灰色ハッチとする。
- 小計欄や合計欄を、都道府県内々の流動を除いた「訪問地計(内々除く)」「合計(内々除く)」と、都道府県内々の流動を含んだ「訪問地計(内々含む)」「合計(内々含む)」の各2種類に分ける。

※2018年以降のデータより、「北海道」について「道北」、「道東」、「道央」、「道南」に4分割しています。

## 2.2 公表用データベースのデータ形式

公表用データベースは、訪日外国人の属性別・四半期別・交通機関別に国内での移動をデータベースの形で整理したデータです。

公表用データベースは、国籍・地域別データと交通機関別データがあり、「入国空海港から最初の国内訪問地」、「国内訪問地間」、「最後の国内訪問地から出国空海港」の四半期別及び年間の流動量が示されております。また、訪日外国人の属性は、旅行目的別・性別※・年代別※となっております。（※2017年以降の国籍・地域別データのみ）

なお、本データは、サンプルに付与された拡大係数を国籍・地域別・旅行目的別・都道府県・出入国空海港単位で集約して2地点間の流動として整理したデータです。

※2024年のデータにおいては、下記の内容を追加しています。

- フィルタ標準搭載
- 国籍9区分を追加（韓国、台湾、香港、中国、ASEAN、ヨーロッパ、北アメリカ、オセアニア、その他）
- 出発地及び目的地に都道府県、ブロックを追加
- ODフラグを追加（1：県間OD、2：県内々OD、99：OD不明）

<国籍・地域別>

(2024年・国籍別)

出国港		国籍		国籍集約(9区分)		性別		年代		旅行目的		出発地		出発都道府県		出発ブロック		
コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	種別	コード	名称	コード	名称	コード	名称
101	成田空港	1	韓国	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	4	宮城県	2	東北	
101	成田空港	1	韓国	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	5	秋田県	2	東北	
101	成田空港	1	韓国	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	8	茨城県	3	関東	
101	成田空港	1	韓国	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	12	千葉県	3	関東	
101	成田空港	1	韓国	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	12	千葉県	3	関東	
900	その他空港	25	南アメリカ	9	その他	99	不明	99	不明	99	不明	01	訪問地	99	不明	99	不明	
900	その他空港	25	南アメリカ	9	その他	99	不明	99	不明	99	不明	02	入国港	999	不明空港	99	不明	
900	その他空港	26	その他オセアニア	8	オセアニア	99	不明	99	不明	99	不明	01	訪問地	99	不明	99	不明	
900	その他空港	26	その他オセアニア	8	オセアニア	99	不明	99	不明	99	不明	02	入国港	999	不明空港	99	不明	
900	その他空港	99	無国籍	9	その他	99	不明	99	不明	99	不明	01	訪問地	99	不明	99	不明	
900	その他空港	99	無国籍	9	その他	99	不明	99	不明	99	不明	02	入国港	999	不明空港	99	不明	

目的地		目的都道府県		目的ブロック		ODフラグ		交通機関		訪日外国人流動量(人)					
種別	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
01	訪問地	13	東京都	3	関東	1	県間	0	全機関				283		283
01	訪問地	13	東京都	3	関東	1	県間	0	全機関					201	201
03	出国港	101	成田空港	12	関東	1	県間	0	全機関					201	201
01	訪問地	13	東京都	3	関東	1	県間	0	全機関				283	201	483
03	出国港	101	成田空港	12	関東	0	県内々	0	全機関	664	558	283	201	1706	
03	出国港	900	その他空港	99	不明	99	OD不明	0	全機関	224	468	367	489	1548	
01	訪問地	99	不明	99	不明	99	OD不明	0	全機関	224	468	367	489	1548	
03	出国港	900	その他空港	99	不明	99	OD不明	0	全機関	364	955	856	804	2979	
01	訪問地	99	不明	99	不明	99	OD不明	0	全機関	364	955	856	804	2979	
03	出国港	900	その他空港	99	不明	99	OD不明	0	全機関	0	0	0	0	1	1
01	訪問地	99	不明	99	不明	99	OD不明	0	全機関	0	0	0	0	1	1

(2017年～2019年及び2022年～2023年・国籍・地域別)

出国港		国籍		性別		年代		旅行目的		出発地			
コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	種別	コード	名称	
101	成田空港	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	1	北海道
101	成田空港	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	8	茨城県
101	成田空港	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	8	茨城県
101	成田空港	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	9	栃木県
101	成田空港	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	11	埼玉県
101	成田空港	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	12	千葉県
101	成田空港	1	韓国	1	男性	10	19歳以下	1	観光・レジャー	01	訪問地	12	千葉県

目的地		交通機関		訪日外国人流動量(人)					
種別	コード	名称	コード	名称	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
01	訪問地	13	東京都	0	全機関	534			534
01	訪問地	8	茨城県	0	全機関		379		379
01	訪問地	13	東京都	0	全機関		379		379
01	訪問地	11	埼玉県	0	全機関	534			534
03	出国港	101	成田空港	0	全機関	534		381	915
01	訪問地	9	栃木県	0	全機関	534			534
01	訪問地	13	東京都	0	全機関	1069	1518	381	2967

(2014年～2016年・国籍・地域別)

出国港		国籍		旅行目的		出発地		目的地					
コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	種別	コード	名称			
101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	01	訪問地	1	北海道	01	訪問地	1	北海道
101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	01	訪問地	1	北海道	01	訪問地	13	東京都
101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	01	訪問地	1	北海道	01	訪問地	99	不明
101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	01	訪問地	1	北海道	03	出国港	101	成田空港
101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	01	訪問地	2	青森県	01	訪問地	2	青森県
101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	01	訪問地	2	青森県	01	訪問地	3	岩手県
101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	01	訪問地	2	青森県	03	出国港	101	成田空港

交通機関		訪日外国人流動量(人)				
コード	名称	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
0	全機関			2,655		2,655
0	全機関	534		758		1,292
0	全機関			379		379
0	全機関	534	444	758		1,736
0	全機関		444			444
0	全機関		444			444
0	全機関			379		379

<交通機関別>

(2024年・交通機関別)

出国港		国籍		旅行目的		出発地		出発都道府県		出発ブロック		
コード	名称	コード	名称	コード	名称	種別	コード	名称	コード	名称	コード	名称
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道
204	境海港	0	全国籍	99	不明	01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明
204	境海港	0	全国籍	99	不明	02入国港	999	不明空海港	99	不明	99	不明
900	その他空海港	0	全国籍	99	不明	01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明
900	その他空海港	0	全国籍	99	不明	02入国港	999	不明空海港	99	不明	99	不明

種別	目的地		目的都道府県		目的ブロック		ODフラグ		交通機関		訪日外国人流動量(人)				
	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道	0	県内々	1	バス	1,208	522	376	359	2,465
01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道	0	県内々	2	鉄道	392	169	122	116	800
01訪問地	1	道北	1	北海道	1	北海道	0	県内々	3	タクシー・ハイヤー	19	8	6	6	38
01訪問地	48	道東	1	北海道	1	北海道	0	県内々	4	レンタカー	1,326	573	413	394	2,706
01訪問地	49	道央	1	北海道	1	北海道	0	県内々	6	国内線飛行機	2	1	1	1	4
01訪問地	50	道南	1	北海道	1	北海道	0	県内々	7	その他	34	15	11	10	69
01訪問地	2	青森	2	青森県	2	東北	1	県間	1	バス	0	81	0	27	108
01訪問地	2	青森	2	青森県	2	東北	1	県間	2	鉄道	0	271	0	90	361
01訪問地	2	青森	2	青森県	2	東北	1	県間	4	レンタカー	0	139	0	46	184
03出国港	204	境海港	31	鳥取県	7	中国	99	OD不明	99	不明	661	6,226	3,604	15	10,506
01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明	99	OD不明	3	タクシー・ハイヤー	661	6,226	3,604	15	10,506
03出国港	900	その他空海港	99	不明	99	不明	99	OD不明	99	不明	90,618	118,481	85,556	91,878	386,533
01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明	99	OD不明	3	タクシー・ハイヤー	90,618	118,481	85,556	91,878	386,533

(2014年～2019年及び2022年～2023年・交通機関別)

出国港		国籍		旅行目的		出発地		目的地						
コード	名称	コード	名称	コード	名称	種別	コード	名称	種別	コード	名称	種別	コード	名称
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道
101	成田空港	0	全国籍	1	観光・レジャー	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道	01訪問地	1	北海道

交通機関		訪日外国人流動量(人)				
コード	名称	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
1	バス	48,530	4,545	29,108	7,634	89,817
2	鉄道	19,911	1,865	10,274	4,281	36,331
3	タクシー・ハイヤー	1,989	186	881	240	3,297
4	レンタカー	10,763	1,008	10,027	1,299	23,097
5	その他の乗用車	346	32	153	42	574
6	国内線飛行機	117	11	52	14	193
7	その他	276	26	122	33	458

## 2.3 貸出用データベースのデータ形式

貸出用データベースでは、ホームページで公表しているデータベースの元データであるサンプルベースのデータです。以下のサンプル情報が含まれております。

- ▶ サンプル別の拡大係数（公表しているデータは拡大係数を集計したデータ）
- ▶ サンプルの周遊ルート（トリップチェーン）が分析できるトリップ単位での情報
- ▶ サンプルの旅行手配方法（団体/個人）、日本への来訪回数、滞在日数・宿泊数
- ▶ 旅行手配方法、日本への来訪回数は2015年以降のデータから項目として追加

なお、貸出用データベースの集計には、表計算ソフト（Excel等）の関数や分析ツールの基礎知識等が必要になる場合があります。

(2024年)

ダミーフラグ	サンプルID	トリップNo	トリップ数	入国港		出国港		国籍		国籍集約(9区分)		旅行目的		旅行手配方法		日本への来訪回数
				コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	
0	1	1	4	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	1	観光・レジ	1	団体旅行	1
0	1	2	4	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	1	観光・レジ	1	団体旅行	1
0	1	3	4	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	1	観光・レジ	1	団体旅行	1
0	1	4	4	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	1	観光・レジ	1	団体旅行	1
0	2	1	8	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	3	その他	2	個人旅行	1
0	2	2	8	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	3	その他	2	個人旅行	1
0	2	3	8	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	3	その他	2	個人旅行	1
0	2	4	8	101	成田空港	101	成田空港	10	ベトナム	5	ASEAN	3	その他	2	個人旅行	1
1	138611	2	2	999	不明空港	134	下地島空港	22	その他ヨーロッパ	6	ヨーロッパ	99	不明	99	不明	99
1	138612	1	2	999	不明空港	134	下地島空港	23	アフリカ	9	その他	99	不明	99	不明	99
1	138612	2	2	999	不明空港	134	下地島空港	23	アフリカ	9	その他	99	不明	99	不明	99
1	138613	1	2	999	不明空港	134	下地島空港	24	その他北アメリカ	7	北アメリカ	99	不明	99	不明	99
1	138613	2	2	999	不明空港	134	下地島空港	24	その他北アメリカ	7	北アメリカ	99	不明	99	不明	99
1	138614	1	2	999	不明空港	134	下地島空港	25	南アメリカ	9	その他	99	不明	99	不明	99
1	138614	2	2	999	不明空港	134	下地島空港	25	南アメリカ	9	その他	99	不明	99	不明	99
1	138615	1	2	999	不明空港	134	下地島空港	26	その他オセアニア	8	オセアニア	99	不明	99	不明	99
1	138615	2	2	999	不明空港	134	下地島空港	26	その他オセアニア	8	オセアニア	99	不明	99	不明	99

種別	出発地		出発都道府県		出発ブロック		目的地		目的地都道府県		目的地ブロック		ODフラグ	性別	年代		滞在日数	宿泊数	期間	
	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称			コード	名称				コード
02入国港	101	成田空港	12	千葉県	3	関東	01訪問地	13	東京都	3	関東	1	県間	1	男性	10	19歳以下	4	3	01-03月
01訪問地	13	東京都	13	東京都	3	関東	01訪問地	13	東京都	3	関東	0	県内々	1	男性	10	19歳以下	4	0	01-03月
01訪問地	13	東京都	13	東京都	3	関東	01訪問地	19	山梨県	3	関東	1	県間	1	男性	10	19歳以下	4	0	01-03月
01訪問地	19	山梨県	19	山梨県	3	関東	03出国港	101	成田空港	12	千葉県	3	関東	1	男性	10	19歳以下	4	0	01-03月
02入国港	101	成田空港	12	千葉県	3	関東	01訪問地	13	東京都	13	東京都	3	関東	1	男性	10	19歳以下	185	184	01-03月
01訪問地	13	東京都	13	東京都	3	関東	01訪問地	13	東京都	3	関東	0	県内々	1	男性	10	19歳以下	185	0	01-03月
01訪問地	13	東京都	13	東京都	3	関東	01訪問地	13	東京都	3	関東	0	県内々	1	男性	10	19歳以下	185	0	01-03月
01訪問地	13	東京都	13	東京都	3	関東	01訪問地	13	東京都	3	関東	0	県内々	1	男性	10	19歳以下	185	0	01-03月
01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明	03出国港	134	下地島空港	47	沖縄県	10	沖縄	99	OD不明	99	不明	99	年間	
02入国港	999	不明空港	99	不明	99	不明	01訪問地	99	不明	99	不明	99	OD不明	99	不明	99	不明	99	年間	
01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明	03出国港	134	下地島空港	47	沖縄県	10	沖縄	99	OD不明	99	不明	99	年間	
02入国港	999	不明空港	99	不明	99	不明	01訪問地	99	不明	99	不明	99	OD不明	99	不明	99	不明	99	年間	
01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明	03出国港	134	下地島空港	47	沖縄県	10	沖縄	99	OD不明	99	不明	99	年間	
02入国港	999	不明空港	99	不明	99	不明	01訪問地	99	不明	99	不明	99	OD不明	99	不明	99	不明	99	年間	
01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明	03出国港	134	下地島空港	47	沖縄県	10	沖縄	99	OD不明	99	不明	99	年間	
02入国港	999	不明空港	99	不明	99	不明	01訪問地	99	不明	99	不明	99	OD不明	99	不明	99	不明	99	年間	
01訪問地	99	不明	99	不明	99	不明	03出国港	134	下地島空港	47	沖縄県	10	沖縄	99	OD不明	99	不明	99	年間	

延べ入込客数(人/年)・四半期拡大ベース										延べ入込客数(人/年)・年間拡大ベース									
01バス	02鉄道	03タクシー	04レンタカー	05その他の乗用車	06国内線飛行機	07その他	99不明	計	01バス	02鉄道	03タクシー	04レンタカー	05その他の乗用車	06国内線飛行機	07その他	99不明	計		
49.55484	206.0816	13.33062	4.725034	4.576838	0	3.116045	0	281.385	49.55484	206.0816	13.33062	4.725034	4.576838	0	3.116045	0	281.385		
25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385	25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385		
134.6312	128.7839	0	17.96985	0	0	0	0	281.385	134.6312	128.7839	0	17.96985	0	0	0	0	281.385		
93.31645	142.7662	12.92074	0	32.3816	0	0	0	281.385	93.31645	142.7662	12.92074	0	32.3816	0	0	0	281.385		
49.55484	206.0816	13.33062	4.725034	4.576838	0	3.116045	0	281.385	49.55484	206.0816	13.33062	4.725034	4.576838	0	3.116045	0	281.385		
25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385	25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385		
25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385	25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385		
25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385	25.29534	195.178	44.74835	3.46589	6.076315	0.942269	5.678776	0	281.385		
0	0	0	4.411765	0	7.058824	3.529412	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15		
0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
0	0	0.588235	0	0.941176	0.470588	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
0	0	0.294118	0	0.470588	0.235294	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
0	0	0.294118	0	0.470588	0.235294	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
0	0	1.470588	0	2.352941	1.176471	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		

※2024年のデータにおいては、下記の内容を追加しています。

- ▶ フィルタ標準搭載
- ▶ ダミーフラグを追加

- 国籍 9 区分を追加（韓国、台湾、香港、中国、ASEAN、ヨーロッパ、北アメリカ、オセアニア、その他）
- 出発地及び目的地に都道府県、ブロックを追加
- OD フラグを追加（1：県間 OD、2：県内々 OD、99：OD 不明）

(2015 年～2019 年及び 2022 年～2023 年)

サンプル ID	トリップNo	トリップ数	出国港		国籍		旅行目的		旅行手配方法		日本への来訪回数
			コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	
1	1	2	101	成田空港	18	米国	3	業務	2	個人旅行	1
2	1	3	101	成田空港	18	米国	4	研修・学会等	2	個人旅行	2
2	2	3	101	成田空港	18	米国	4	研修・学会等	2	個人旅行	2
3	1	2	101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	2	個人旅行	3
4	1	2	101	成田空港	4	中国	2	家族・知人の訪問	2	個人旅行	4
5	1	7	101	成田空港	4	中国	2	家族・知人の訪問	2	個人旅行	5
5	2	7	101	成田空港	4	中国	2	家族・知人の訪問	2	個人旅行	5
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

出発地			目的地			滞在日数	宿泊数	期間
種別	コード	名称	種別	コード	名称			
02 入国港	999	不明空港	01 訪問地	14	神奈川県	1	0	07-09 月期
02 入国港	101	成田空港	01 訪問地	13	東京都	4	2	07-09 月期
01 訪問地	13	東京都	01 訪問地	12	千葉県	4	1	07-09 月期
02 入国港	101	成田空港	01 訪問地	13	東京都	4	3	07-09 月期
02 入国港	999	不明空港	01 訪問地	13	東京都	1	0	07-09 月期
02 入国港	102	関西空港	01 訪問地	27	大阪府	21	4	07-09 月期
01 訪問地	27	大阪府	01 訪問地	26	京都府	21	5	07-09 月期
...	...	...	...	...	...	...	...	...

交通機関別四半期拡大係数									交通機関別年間 拡大係数								
01バス	02鉄道	03タクシー・ハイヤー	04レンタカー	05その他の乗用車	06国内線飛行機	07その他	99不明		01バス	02鉄道	03タクシー・ハイヤー	04レンタカー	05その他の乗用車	06国内線飛行機	07その他	99不明	
								222								222	
222									222								
222									222								
	302									302							
								560								560	
	560								560								
									560								

※ 緑網掛けは貸出用データベースにのみ付与されている情報

(2014 年)

サンプル ID	トリップNo	トリップ数	出国港		国籍		旅行目的		出発地			目的地		
			コード	名称	コード	名称	コード	名称	種別	コード	名称	種別	コード	名称
1	1	2	101	成田空港	18	米国	3	業務	02 入国港	999	不明空港	01 訪問地	14	神奈川県
2	1	3	101	成田空港	18	米国	4	研修・学会等	02 入国港	101	成田空港	01 訪問地	13	東京都
2	2	3	101	成田空港	18	米国	4	研修・学会等	01 訪問地	13	東京都	01 訪問地	12	千葉県
3	1	2	101	成田空港	1	韓国	1	観光・レジャー	02 入国港	101	成田空港	01 訪問地	13	東京都
4	1	2	101	成田空港	4	中国	2	家族・知人の訪問	02 入国港	999	不明空港	01 訪問地	13	東京都
5	1	7	101	成田空港	4	中国	2	家族・知人の訪問	02 入国港	102	関西空港	01 訪問地	27	大阪府
5	2	7	101	成田空港	4	中国	2	家族・知人の訪問	01 訪問地	27	大阪府	01 訪問地	26	京都府
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

滞在日数	宿泊数	期間	交通機関別四半期拡大係数									交通機関別年間 拡大係数								
			01バス	02鉄道	03タクシー・ハイヤー	04レンタカー	05その他の乗用車	06国内線飛行機	07その他	99不明	01バス	02鉄道	03タクシー・ハイヤー	04レンタカー	05その他の乗用車	06国内線飛行機	07その他	99不明		
1		07-09 月期																222		
4		2 07-09 月期																222		
4		1 07-09 月期																222		
4		3 07-09 月期																		
1		0 07-09 月期																560		
21		4 07-09 月期																560		
21		5 07-09 月期																560		
...	...	...																		

### 3. データの利用例の作成方法

ホームページで公表している「FF-Data（訪日外国人流動データ）の概要と利用例」の分析例の作成方法を以下に示しました。

#### 3.1 流動量・入込客数に関する分析

##### (1) 分析例① 都道府県間年間流動量ランキング

#### 分析例① 都道府県間年間流動量ランキング



都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース  
※分析例作成の際に利用を推奨するデータをオレンジ色で示している

- 都道府県間の年間流動量を把握することが可能である。
- 都道府県間の年間流動量は、千葉県 - 東京都間、京都府 - 大阪府間、東京都 - 神奈川県間の順で多く、国際空港と隣接する観光地間を結ぶ流動が多いことがわかる。

表 都道府県間の年間流動量ランキング（2024年）

順位	都道府県間	年間流動量 (万人/年)	順位	都道府県間	年間流動量 (万人/年)	順位	都道府県間	年間流動量 (万人/年)
1	千葉県 東京都	1,712.8	21	東京都 愛知県	55.6	41	愛知県 三重県	27.4
2	京都府 大阪府	1,151.4	22	愛知県 大阪府	52.1	42	東京都 石川県	24.3
3	東京都 神奈川県	341.2	23	東京都 奈良県	46.0	43	山口県 福岡県	24.2
4	東京都 京都府	289.9	24	京都府 広島県	42.8	44	福岡県 佐賀県	23.9
5	東京都 大阪府	277.2	25	熊本県 大分県	42.0	45	神奈川県 静岡県	23.7
6	大阪府 奈良県	232.5	26	兵庫県 奈良県	41.9	46	神奈川県 大阪府	22.9
7	東京都 山梨県	228.9	27	愛知県 京都府	41.4	47	山梨県 静岡県	21.3
8	福岡県 大分県	207.8	28	千葉県 静岡県	39.2	48	静岡県 愛知県	21.2
9	京都府 奈良県	195.8	29	大阪府 和歌山県	39.2	49	石川県 京都府	21.2
10	大阪府 兵庫県	183.8	30	神奈川県 京都府	38.5	50	山梨県 大阪府	20.6
11	千葉県 神奈川県	133.2	31	神奈川県 山梨県	38.2	51	長野県 岐阜県	19.4
12	千葉県 山梨県	106.0	32	千葉県 京都府	36.8	52	東京都 沖縄県	19.2
13	東京都 静岡県	105.2	33	埼玉県 東京都	36.3	53	岐阜県 京都府	18.5
14	岐阜県 愛知県	84.8	34	東京都 広島県	36.2	54	東京都 新潟県	18.4
15	福岡県 熊本県	82.4	35	栃木県 東京都	34.7	55	北海道 千葉県	17.9
16	京都府 兵庫県	76.5	36	山梨県 京都府	33.6	56	宮城県 東京都	17.8
17	東京都 長野県	67.0	37	福岡県 長崎県	33.3	57	東京都 岐阜県	17.7
18	千葉県 大阪府	61.0	38	石川県 岐阜県	31.0	58	静岡県 京都府	17.5
19	大阪府 広島県	57.3	39	埼玉県 千葉県	30.9	59	広島県 福岡県	17.2
20	北海道 東京都	55.8	40	千葉県 長野県	29.5	60	茨城県 千葉県	16.7

(注1) 上位60位までを掲載。  
 (注2) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。  
 (注3) 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)、近畿圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)、中京圏(愛知県、岐阜県、三重県)  
 (出典)FF-Data(2024年)より作成



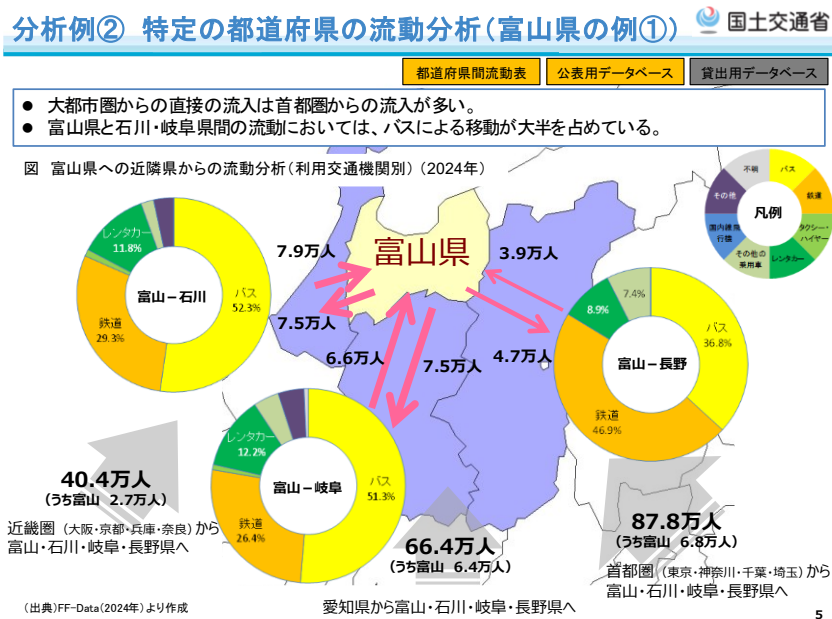
#### 作成方法(i)

- 利用データ：公表用データベース（どちらの sheet も可）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① ODフラグが「1：県間」を抽出する。
  - ② 出発都道府県と目的都道府県の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 訪日外国人流動量（年間）で、ODペアの多い順に並べ替えを行う。

#### 作成方法(ii)

- 利用データ：都道府県間流動表（全国籍・全機関 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 国内訪問地（出発地）及び入国空海港が不明以外の都道府県を抽出し、同一都道府県は合算する。
  - ② 国内訪問地（目的地）及び出国空海港が不明以外の都道府県を抽出し、同一都道府県は合算する。
  - ③ ①と②を都道府県の組合せで集計し、ODペアの多い順に並べ替えを行う。但し、県内々のODペアは除く。

(2) 分析例② 特定の都道府県の流動分析（富山県の例①）



作成方法 (i)

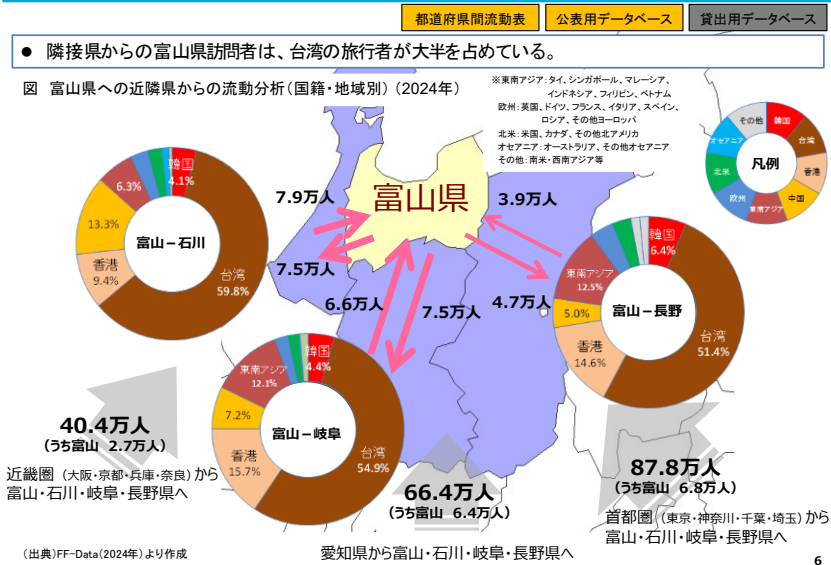
- 利用データ： 公表用データベース（全国籍・機関別 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 出発都道府県と目的都道府県と交通機関の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ② 対象とする都道府県を抽出する。
  - ③ 富山-石川間、富山-岐阜間、富山-長野間の交通機関分担率を集計する。

作成方法 (ii)

- 利用データ： 都道府県間流動表（交通機関別OD表の交通機関別 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 各交通機関別 sheet の国内訪問地（出発地）及び入国空海港が対象都道府県である行を抽出する。
  - ② 各交通機関別 sheet の国内訪問地（目的地）及び出国空海港が対象都道府県である列を抽出する。
  - ③ 交通機関別に①と②を都道府県の組合せで集計する。
  - ④ 富山-石川間、富山-岐阜間、富山-長野間の交通機関分担率を集計する。

(3) 分析例③ 特定の都道府県の流動分析（富山県の例②）

分析例③ 特定の都道府県の流動分析（富山県の例②） 国土交通省



作成方法 (i)

- 利用データ： 公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 出発都道府県と目的都道府県と国籍集約（9 区分）の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ② 対象とする都道府県を抽出する。
  - ③ 富山-石川間、富山-岐阜間、富山-長野間の国籍構成率を集計する。

作成方法 (ii)

- 利用データ： 都道府県間流動表（国籍・地域別OD表の国籍・地域別 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 国籍・地域別 sheet の国内訪問地（出発地）及び入国空海港が対象都道府県である行を抽出する。
  - ② 国籍・地域別 sheet の国内訪問地（目的地）及び出国空海港が対象都道府県である列を抽出する。
  - ③ 国籍・地域別に①と②を都道府県の組合せで集計する。
  - ④ 富山-石川間、富山-岐阜間、富山-長野間の国籍構成率を集計する。

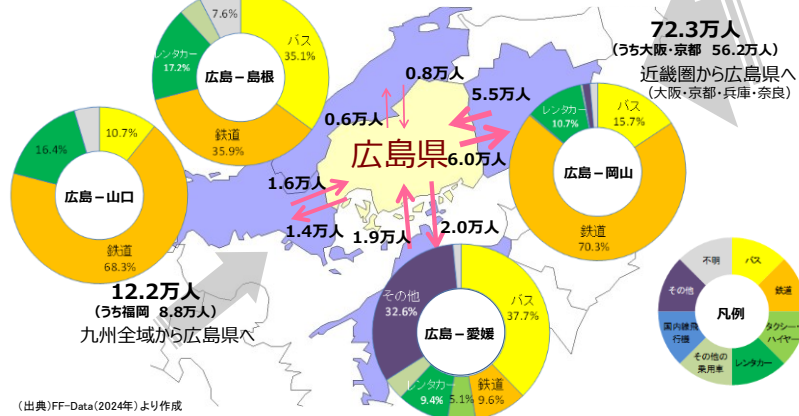
(4) 分析例④ 特定の都道府県の流動分析（広島県の例①）

分析例④ 特定の都道府県の流動分析（広島県の例①） 

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 隣接県間の交通手段は山陽新幹線で繋がる岡山－広島－山口は鉄道利用が多い。
- 広島－愛媛間は、バス・鉄道・レンタカー以外にも、その他の利用が多い。これは瀬戸内しまなみ海道の自転車利用や旅客船・フェリー利用であると考えられる。

図 広島県への近隣県からの流動分析（利用交通機関別）（2024年）



(出典)FF-Data(2024年)より作成

7

作成方法 (i)

- 利用データ： 公表用データベース（全国籍・機関別 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 出発都道府県と目的都道府県と交通機関の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ② 対象とする都道府県を抽出する。
  - ③ 広島－山口間、広島－島根間、広島－愛媛間、広島－岡山間の交通機関分担率を集計する。

作成方法 (ii)

- 利用データ： 都道府県間流動表（交通機関別OD表の交通機関別 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 各交通機関別 sheet の国内訪問地（出発地）及び入国空海港が対象都道府県である行を抽出する。
  - ② 各交通機関別 sheet の国内訪問地（目的地）及び出国空海港が対象都道府県である列を抽出する。
  - ③ 交通機関別に①と②を都道府県の組合せで集計する。
  - ④ 広島－山口間、広島－島根間、広島－愛媛間、広島－岡山間の交通機関分担率を集計する。

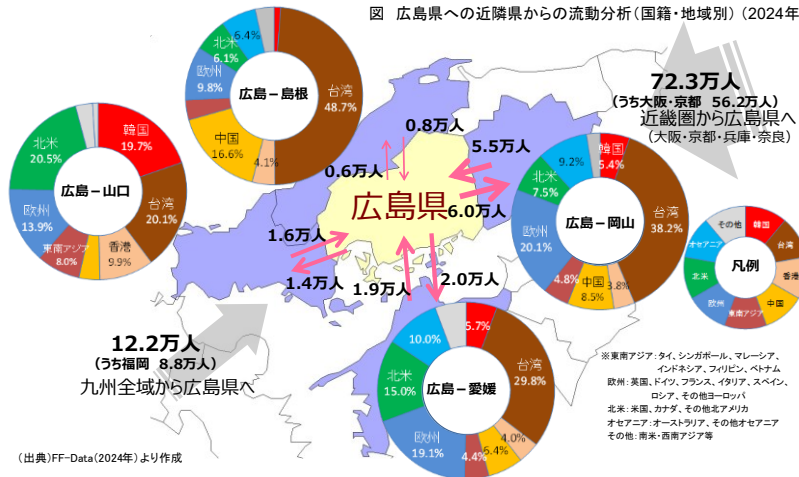
(5) 分析例⑤ 特定の都道府県の流動分析（広島県の例②）

分析例⑤ 特定の都道府県の流動分析（広島県の例②） 国土交通省

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 広島県と隣接県間の国籍・地域構成をみると、岡山・愛媛県は台湾・欧米豪、島根県は台湾・中国、山口県は韓国・台湾・欧米の構成率が比較的に高い。

図 広島県への近隣県からの流動分析（国籍・地域別）（2024年）



8

作成方法 (i)

- 利用データ： 公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 出発都道府県と目的都道府県と国籍集約（9 区分）の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ② 対象とする都道府県を抽出する。
  - ③ 広島－山口間、広島－島根間、広島－愛媛間、広島－岡山間の国籍構成率を集計する。

作成方法 (ii)

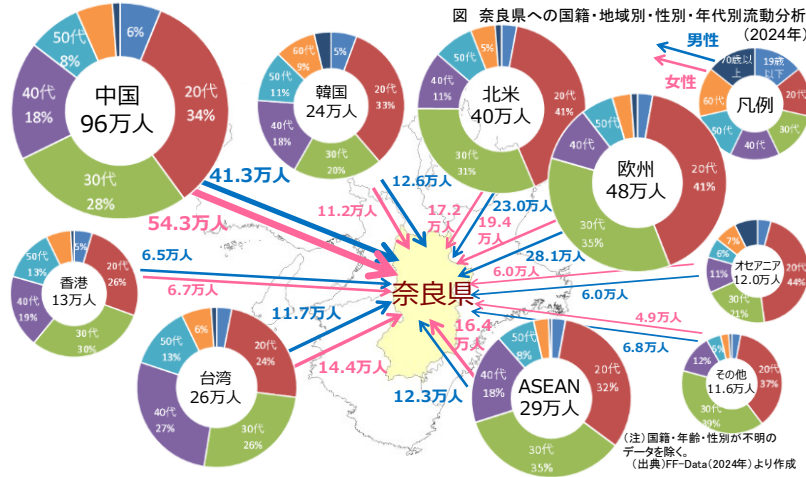
- 利用データ： 都道府県間流動表（国籍・地域OD表の国籍・地域別 sheet）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 国籍・地域別 sheet の国内訪問地（出発地）及び入国空海港が対象都道府県である行を抽出する。
  - ② 国籍・地域別 sheet の国内訪問地（目的地）及び出国空海港が対象都道府県である列を抽出する。
  - ③ 国籍・地域別に①と②を都道府県の組合せで集計する。
  - ④ 広島－山口間、広島－島根間、広島－愛媛間、広島－岡山間の国籍構成率を集計する。

(6) 分析例⑥ 特定の都道府県の流動分析（奈良県の例①）

分析例⑥ 特定の都道府県の流動分析（奈良県の例①） 

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 国籍・地域が 中国からの訪問が約 96万人と最も多く、次いで欧州、北米、ASEANの順となっている。
- 全国籍・地域いずれも 30代以下の年代が 6～7割を占める。



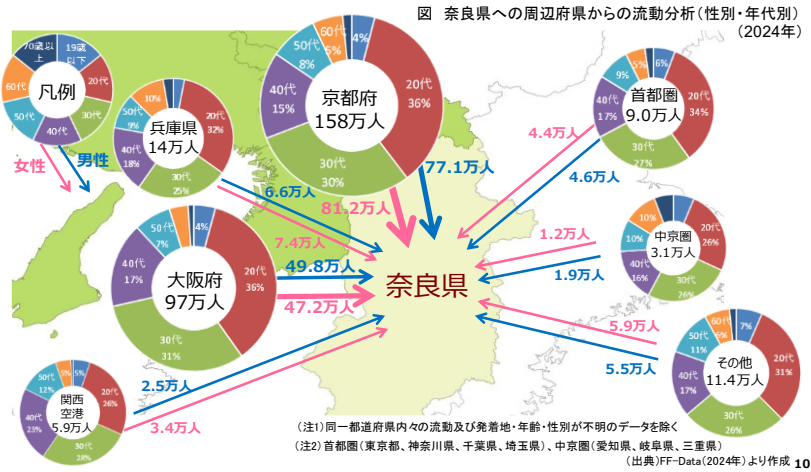
- 利用データ： 公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地（奈良県）、訪問地間の目的地（奈良県）
- 手順：
  - ① 目的都道府県で奈良県を抽出する。
  - ② 目的都道府県（奈良県）と国籍集約(9区分)と性別と年代の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。但し、性別不明または年代不明を除く。
  - ③ 国籍・地域別に、奈良県への男女別入込客数及び年代構成率を集計する。

(7) 分析例⑦ 特定の都道府県の流動分析（奈良県の例②）

分析例⑦ 特定の都道府県の流動分析（奈良県の例②） 

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 京都府からの訪問が約 158万人/年、大阪府からの訪問が約 97万人/年と多い。
- 各方面いずれも30代以下の年代が 6～7割を占める。



- 利用データ： 公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地（奈良県）、訪問地間の目的地（奈良県）
- 手順：
  - ① 目的都道府県で奈良県を抽出する。
  - ② ODフラグが「1：県間」を抽出する。
  - ③ 出発地と目的都道府県（奈良県）と性別と年代の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。但し、性別不明または年代不明を除く。
  - ④ 出発地で東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県は「首都圏」、愛知県・岐阜県・三重県は「中京圏」に集約する。
  - ⑤ 出発地で東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・愛知県・岐阜県・三重県・京都府・大阪府・兵庫県・関西空港以外は、「その他」に集約する。
  - ⑥ 出発地別に、奈良県への男女別入込客数及び年代構成率を集計する。

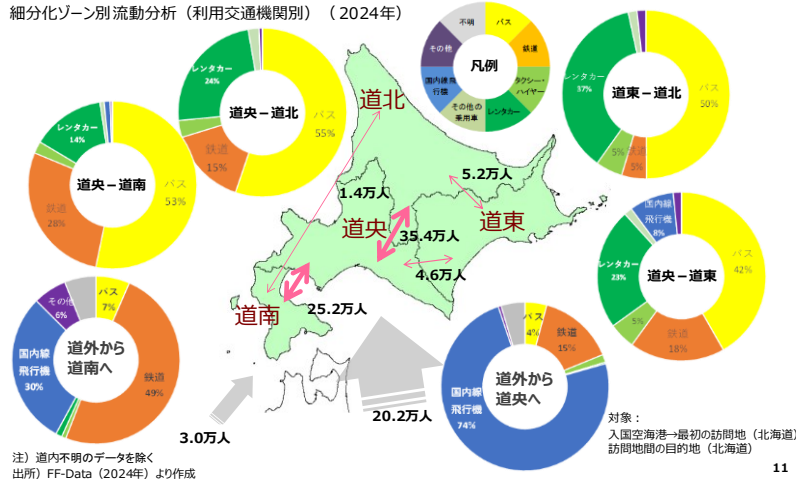
(8) 分析例⑧ 特定の都道府県の流動分析（北海道の例①）

分析例⑧ 特定の都道府県の流動分析（北海道の例①） 

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 道内周遊はバス、レンタカー、鉄道による移動が多くなっている。
- 本州等から道央へは国内線飛行機が約 7割、道南へは鉄道が約 5割と高くなっている。

図 細分化ゾーン別流動分析（利用交通機関別）（2024年）



- 利用データ： 公表用データベース（全国籍・機関別 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地（北海道）、訪問地間の目的地（北海道）  
但し、道内不明を除く
- 手順：
  - ① 出発地と目的地と交通機関の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ② 対象OD間の訪日外国人流動量（年間）を集計する。この時、道外データとは、出発都道府県または目的都道府県で、北海道及び不明以外の都道府県データを指す。
  - ③ 対象OD別に交通機関分担率を集計する。

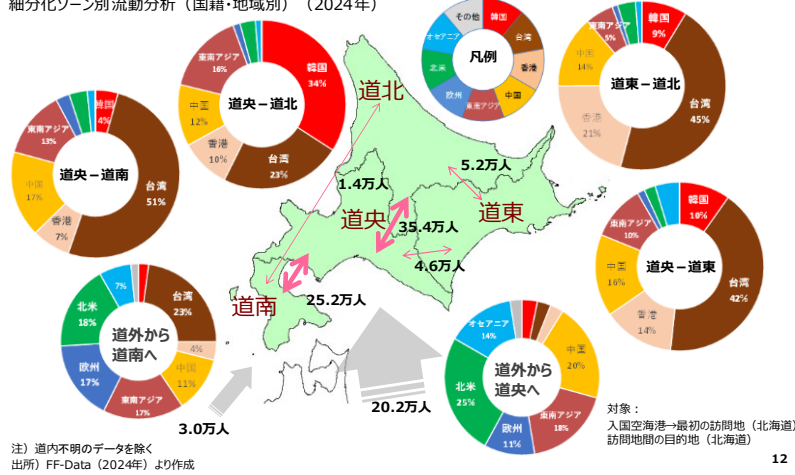
(9) 分析例⑨ 特定の都道府県の流動分析（北海道の例②）

分析例⑨ 特定の都道府県の流動分析（北海道の例②） 

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 道内周遊は韓国・台湾を中心にアジアが約 8～9割を占めている。
- 本州等から道央・道南へは欧米豪が約 3～4割を占めている。

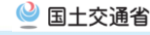
図 細分化ゾーン別流動分析（国籍・地域別）（2024年）



- 利用データ： 公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地（北海道）、訪問地間の目的地（北海道）  
但し、道内不明を除く
- 手順：
  - ① 出発地と目的地と国籍集約（9 区分）の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ② 対象OD間の訪日外国人流動量（年間）を集計する。この時、道外データとは、出発都道府県または目的都道府県で、北海道及び不明以外の都府県データを指す。
  - ③ 対象OD別に国籍構成率を集計する。

(10) 分析例⑩ 国籍・地域別 都道府県年間入込客数ランキング

分析例⑩ 国籍・地域別 都道府県年間入込客数ランキング



都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 国籍・地域別に各都道府県の入込客数を把握することが可能である。
- 韓国の旅行者は福岡・北海道・沖縄に多数訪問しており、欧米豪の旅行者は他の国籍・地域の方と比べて広島県を多く訪問している。
- 富士山のある山梨・静岡県は、中国・東南アジア・欧米豪の旅行者が多く訪問している。

表 国籍・地域別 都道府県年間入込客数ランキング(2024年)

国名	訪問地									
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
中国	東京都 459.1	大阪府 423.6	京都府 258.7	奈良県 95.6	神奈川県 92.6	北海道 77.4	愛知県 73.6	山梨県 69.8	千葉県 64.3	兵庫県 50.7
韓国	福岡県 417.2	大阪府 297.8	東京都 270.4	北海道 229.2	沖縄県 145.2	京都府 143.6	大分県 120.7	愛知県 34.4	兵庫県 30.9	千葉県 30.9
台湾	東京都 236.9	沖縄県 233.6	大阪府 207.4	北海道 197.4	京都府 131.9	福岡県 74.3	愛知県 54.5	千葉県 48.7	神奈川県 41.2	熊本県 38.6
タイ	東京都 81.9	大阪府 44.7	北海道 34.9	京都府 22.6	山梨県 19.6	千葉県 18.8	福岡県 14.5	神奈川県 9.6	長野県 9.0	静岡県 6.5
フィリピン	東京都 75.6	大阪府 38.5	京都府 20.3	千葉県 17.9	山梨県 12.2	奈良県 9.5	神奈川県 8.2	福岡県 7.9	長野県 7.8	静岡県 5.8
英国	東京都 48.4	京都府 20.8	大阪府 19.4	広島県 7.5	神奈川県 6.9	奈良県 5.2	山梨県 4.0	北海道 3.3	千葉県 2.9	長野県 2.7
米国	東京都 358.3	大阪府 123.7	京都府 113.1	山梨県 61.2	千葉県 38.1	奈良県 28.1	広島県 22.8	北海道 18.1	山梨県 17.6	沖縄県 14.6
オーストラリア	東京都 108.9	大阪府 58.8	京都府 46.7	広島県 16.8	千葉県 15.3	長野県 15.1	神奈川県 14.5	北海道 13.3	奈良県 10.8	山梨県 10.3

(注1) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。  
 (注2) 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)、近畿圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)、中京圏(愛知県、岐阜県、三重県)  
 (出典)FF-Data(2024年)より作成

13

- 利用データ：公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① 目的都道府県が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② 目的都道府県と国籍の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 国籍・地域別に訪日外国人流動量（年間）の多い順に並べ替えを行う。

(11) 分析例⑪ 男女別 都道府県年間入込客数ランキング

分析例⑪ 男女別 都道府県年間流動量ランキング



都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 都道府県間流動量では、男女ともに千葉県ー東京都、京都府ー大阪府、東京都ー神奈川県のような大都市圏内の移動が上位。地方では 福岡県ー大分県 の移動が多い。
- 東京都ー山梨県などは男性よりも女性のほうが上位となっている。  
(東京都ー山梨県間：男性7位、女性5位)

表 男女別・都道府県間の年間流動量ランキング(2024年)

男性				女性			
順位	都道府県間	年間流動量 (万人/年)	全対比 (%)	順位	都道府県間	年間流動量 (万人/年)	全対比 (%)
1	千葉県 東京都	882.0	21.5	1	千葉県 東京都	830.8	21.3
2	京都府 大阪府	548.7	13.3	2	京都府 大阪府	602.7	15.5
3	東京都 神奈川県	182.1	4.4	3	東京都 神奈川県	159.2	4.1
4	東京都 京都府	163.5	4.0	4	東京都 京都府	126.4	3.2
5	東京都 大阪府	159.2	3.9	5	東京都 山梨県	119.1	3.1
6	大阪府 奈良県	113.8	2.8	6	大阪府 奈良県	118.7	3.0
7	東京都 山梨県	109.9	2.7	7	東京都 大阪府	118.0	3.0
8	福岡県 大分県	98.2	2.3	8	福岡県 大分県	111.5	2.9
9	京都府 奈良県	95.4	2.3	9	京都府 奈良県	100.4	2.6
10	大阪府 兵庫県	90.0	2.2	10	大阪府 兵庫県	93.8	2.4
11	千葉県 神奈川県	67.7	1.6	11	千葉県 神奈川県	65.4	1.7
12	東京都 静岡県	53.9	1.3	12	千葉県 山梨県	58.5	1.5
13	千葉県 山梨県	47.5	1.2	13	東京都 静岡県	51.3	1.3
14	福岡県 熊本県	43.1	1.0	14	岐阜県 愛知県	48.1	1.2
15	京都府 兵庫県	37.7	0.9	15	福岡県 熊本県	39.3	1.0
16	岐阜県 愛知県	36.7	0.9	16	京都府 兵庫県	38.8	1.0
17	東京都 長野県	36.0	0.9	17	東京都 長野県	31.0	0.8
18	大阪府 広島県	34.8	0.8	18	千葉県 大阪府	28.3	0.7
19	北海道 東京都	33.0	0.8	19	愛知県 大阪府	25.5	0.7
20	千葉県 大阪府	32.7	0.8	20	東京都 愛知県	23.2	0.6

(注1) 男女それぞれ上位0位まで掲載。  
 (注2) 同一都道府県内々の流動及び発着地の都道府県が不明のデータを除く。  
 (注3) 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)、近畿圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)、中京圏(愛知県、岐阜県、三重県)  
 (出典)FF-Data(2024年)より作成

首都圏	九州
近畿圏	北海道
中京圏	沖縄

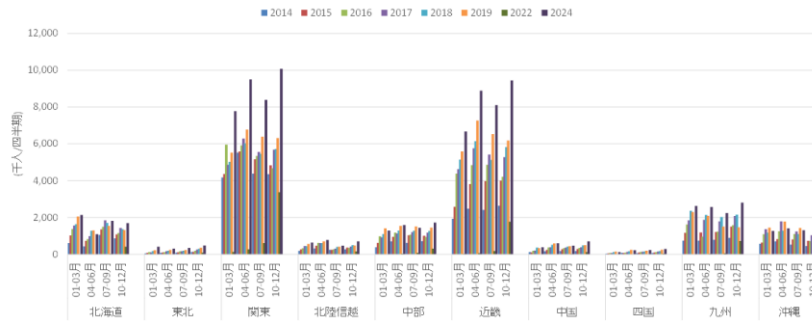
- 利用データ：公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① ODフラグが「1：県間」を抽出する。
  - ② 性別が「99：不明」以外を抽出する。
  - ③ 性別と出発都道府県と目的都道府県の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ④ 男女別に訪日外国人流動量（年間）の多い順に並べ替えを行う。

(12) 分析例⑫ 運輸局ブロック別 四半期別入込客数

分析例⑫ 運輸局ブロック別 四半期別入込客数

- 入込客数を四半期別に把握することが可能である。
- 2024年は、関東・近畿への入込客数が大きく増加し、10-12月が最も多い。

図 運輸局ブロック別 四半期別入込客数



(注1) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明のデータを除く。

(注2) 2020-2021年は新型コロナウイルス感染症の影響でデータなし。

出典)FF-Data(2014~2024年)より作成

15

- 利用データ： 公表用データベース（どちらの sheet も可）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① 目的ブロックが「99：不明」以外を抽出する。
  - ② 目的ブロックで、年次別に訪日外国人流動量（四半期）を集計する。

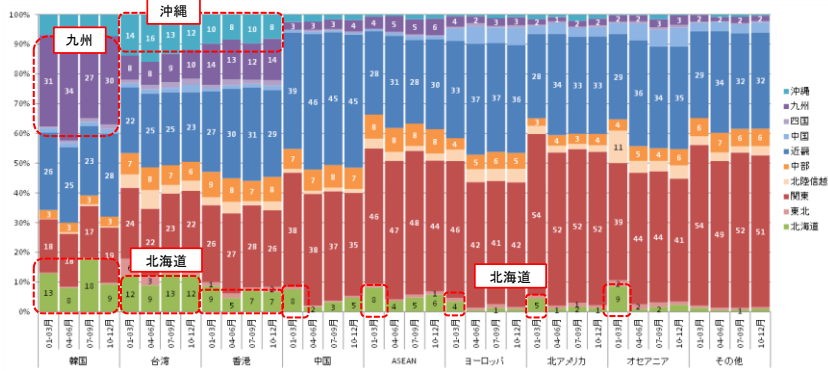
(13) 分析例⑬ 運輸局ブロック別 四半期別 国籍別入込客シェア

分析例⑬ 運輸局ブロック別 四半期別 国籍・地域別入込客シェア 

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 国籍・地域別の入込客数を四半期別に把握することが可能である。
- 韓国の北海道・九州訪問、台湾・香港の北海道・沖縄訪問など、国籍・地域による違いがみられる。
- 中国・ASEAN・欧米豪の北海道1-3月訪問など、四半期による違いがみられる。

図 国籍・地域別 四半期別 運輸局ブロック別入込客シェア (2024年)



(注) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明のデータを除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。  
(出典)FF-Data(2024年)より作成

16

- 利用データ： 公表用データベース (どちらの sheet も可)
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① 目的ブロックが「99：不明」以外を抽出する。
  - ② 目的ブロックと国籍集約(9区分)の組合せで、訪日外国人流動量(四半期)を集計する。
  - ③ 運輸局ブロック別に国籍構成率を集計する。

### 3.2 利用交通機関に関する分析

#### (14) 分析例⑭ 運輸局ブロック別 交通機関分担率

#### 分析例⑭ 運輸局ブロック別 交通機関分担率

国土交通省

都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 日本全国で見ると、利用交通機関は鉄道が最も多く、次いでバスの移動が多い。
- 関東・近畿ブロックは鉄道での移動が多く、沖縄はレンタカーの利用が多い。

図 利用交通機関の内訳(2024年)

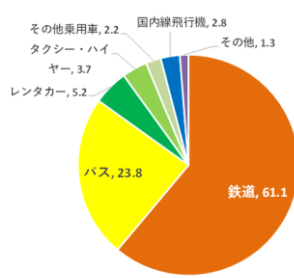
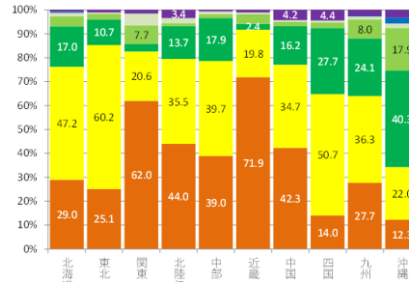


図 地方ブロック内々での利用交通機関の内訳(2024年)



● 鉄道 ● バス ● レンタカー ● タクシー・ハイヤー ● その他乗用車 ● 国内線飛行機 ● その他

注1: (左図) 同一都道府県内々の移動及び発着地の都道府県が不明のデータを除く。交通機関不明を除く。  
 注2: (右図) 地域ブロックは地方運輸局エリア単位で集計。入国港から最初訪問地までの移動と最終訪問地から出国港までの移動及び発着地不明を除き、国内訪問地間の運輸局エリア内々移動を対象。交通機関不明を除く。  
 注3: 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。  
 (出典)FF-Data(2024年)より作成

18

#### 作成方法(左図)

- 利用データ： 公表用データベース (全国籍・機関別 sheet)
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① OD フラグが「1：県間」且つ、交通機関が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② 交通機関別に訪日外国人流動量 (年間) を集計する。
  - ③ 交通機関分担率を集計する。

#### 作成方法(右図)

- 利用データ： 公表用データベース (全国籍・機関別 sheet)
- 対象：訪問地間
- 手順：
  - ① OD フラグが「99：OD 不明」以外、または、交通機関が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② 出発ブロックと目的ブロックが同じ組合せの流動を抽出する。
  - ③ 出発ブロックと目的ブロックと交通機関の組合せで、訪日外国人流動量 (年間) を集計する。
  - ④ 運輸局ブロック別に交通機関分担率を集計する。

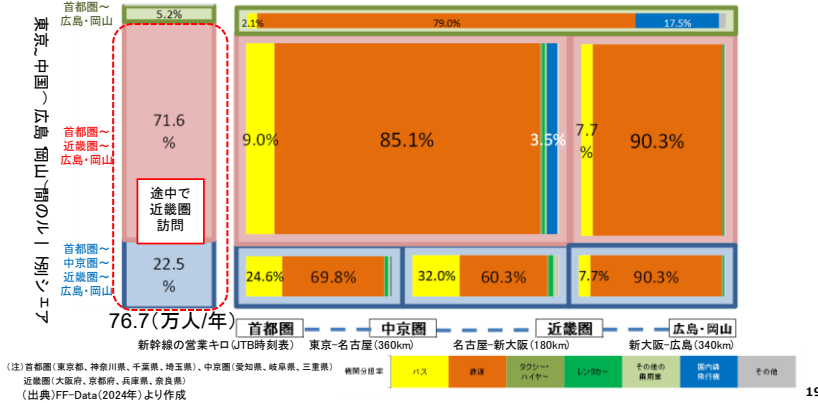
(15) 分析例⑮ 首都圏-中国（広島・岡山）間旅行者の経由地を含む流動分析

分析例⑮ 首都圏-中国（広島・岡山）間旅行者の経由地を含む流動分析  国土交通省

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 東京～広島・岡山間の訪日外国人旅行者数は年間 998 万人となり、そのうち9割以上の旅行者は途中で近畿圏(京都・大阪)を訪問している。
- 首都圏からの旅行者の約 6～9割が鉄道で中国(広島・岡山)を訪れている。

図 東京～中国（広島・岡山）間のルート別交通機関別訪日外国人旅行者数（2024年）



- 利用データ： 貸出用データベース
- 対象：入国空港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① サンプル ID 別に目的都道府県を集計し、対象地域の両方（東京と広島、または、東京と岡山）を訪問しているデータを抽出する。<sup>1</sup>
  - ② 出発都道府県と目的都道府県と交通機関の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 首都圏～中京圏間、中京圏～近畿圏間、近畿圏～広島・岡山県間、首都圏～近畿圏間、首都圏～広島・岡山県間別に交通機関分担率を集計する。<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 対象サンプルの訪問地として、東京・名古屋・大阪・広島や東京・千葉・京都・岡山は対象データとなるが、名古屋・大阪・広島や千葉・京都・岡山・広島は対象外となる。

<sup>2</sup> 首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、中京圏（愛知県、岐阜県、三重県）、近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）

### 3.3 旅行者属性に関する分析

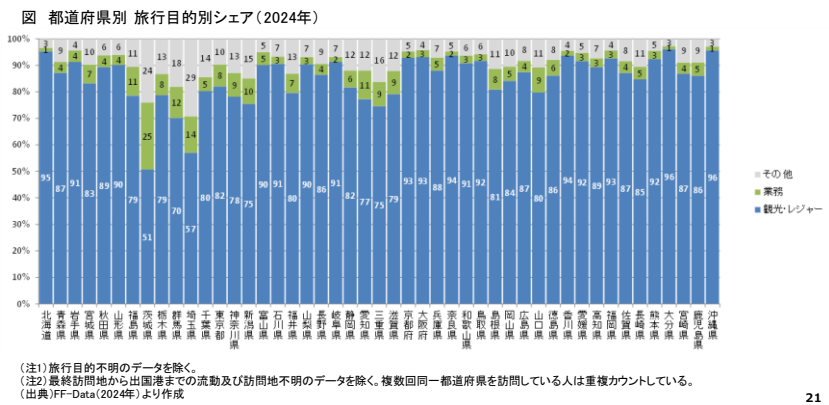
#### (16) 分析例⑯ 都道府県別 旅行目的別シェア

国土交通省

**分析例⑯ 都道府県別 旅行目的別シェア**

都道府県間流動表    公表用データベース    貸出用データベース

- 旅行者の旅行目的を把握することが可能である。
- 北海道・東北・北陸・近畿・四国・九州・沖縄等は「観光・レジャー」の割合が 9割以上と高い。
- 一方、茨城県・埼玉県は他の地域と比較して、業務等の目的が 4～5割と高い。



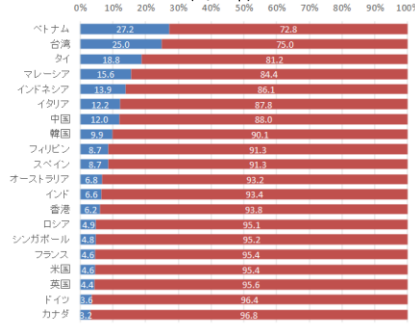
- 利用データ： 公表用データベース (どちらの sheet も可)
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① 目的都道府県が「99：不明」以外、または、旅行目的が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② 目的都道府県と旅行目的の組合せで、訪日外国人流動量(年間)を集計する。
  - ③ 目的都道府県別に旅行目的構成率を集計する。

(17) 分析例⑰ 国籍・地域別旅行手配方法（団体/個人）

分析例⑰ 国籍・地域別旅行手配方法（団体/個人）

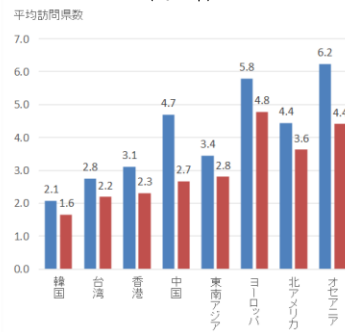
- 旅行者の旅行手配方法（団体 / 個人）を把握することが可能である。
- ベトナム・台湾・タイの旅行者は団体旅行が約 2～3割と多い。
- 国籍・地域に関わらず、個人旅行よりも 団体旅行 における平均訪問県数 が多い。

図 訪日外国人旅行者の国籍・地域別旅行手配方法（2024年）



(注) 旅行手配方法不明のデータを除く。  
(出典)FF-Data(2024年)より作成

図 国籍・地域別旅行手配方法別平均訪問県数（2024年）



(注1) 旅行手配方法不明のデータを除く。  
(注2) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。

1) 訪日外国人旅行者の国籍・地域別旅行手配方法（左図）

- 利用データ：貸出用データベース
- 対象：インバウンド数（実人数）
- 手順：
  - ① 旅行手配方法が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② インバウンド数を対象（複数の都道府県を訪問した場合でも一人とカウント）とするため、トリップNo「1」のみを抽出する。
  - ③ 国籍・地域と旅行手配方法の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ④ 国籍・地域別に旅行手配方法の構成率を集計する。

2) 国籍・地域別団体/個人別平均訪問県数（右図）

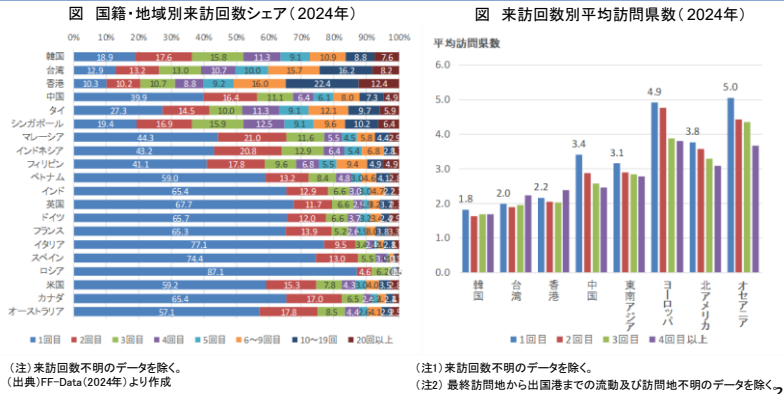
- 利用データ：貸出用データベース
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① 旅行手配方法が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② サンプルID別に目的都道府県を集計し、訪問都道府県数を重複がないように集計する。（同一サンプルに同一都道府県が複数存在する場合は、1県とカウント）
  - ③ 国籍・地域別旅行手配方法別に、訪問都道府県数を訪日外国人流動量（年間）で加重平均する。

(18) 分析例⑱ 国籍・地域別来訪回数

分析例⑱ 国籍・地域別来訪回数

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 旅行者の来訪回数を把握することが可能である。
- 中国・東南アジア・欧米豪の旅行者は来訪回数が 1回目の 平均訪問県数 が最も多い。
- 来訪回数が増加するにつれて、平均訪問県数 は減少する国籍・地域が多いが、台湾・香港の旅行者は、来訪回数 4回目以上の 平均訪問県数 が、若干多い傾向にある。



1) 国籍・地域別来訪回数シェア (左図)

- 利用データ： 貸出用データベース
- 対象：インバウンド数 (実人数)
- 手順：
  - ① 日本への来訪回数が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② インバウンド数を対象 (複数の都道府県を訪問した場合でも一人とカウント) とするため、トリップ No「1」のみを抽出する。
  - ③ 国籍・地域と日本への来訪回数の組合せで、訪日外国人流動量 (年間) を集計する。
  - ④ 国籍・地域別に日本への来訪回数の構成率を集計する。

2) 来訪回数別平均訪問県数 (右図)

- 利用データ： 貸出用データベース
- 対象：入国空港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① 日本への来訪回数が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② サンプル ID 別に目的都道府県を集計し、訪問都道府県数を重複がないように集計する。(同一サンプルに同一都道府県が複数存在する場合は、1県とカウント)
  - ③ 国籍・地域別日本への来訪回数別に、訪問都道府県数を訪日外国人流動量 (年間) で加重平均する。

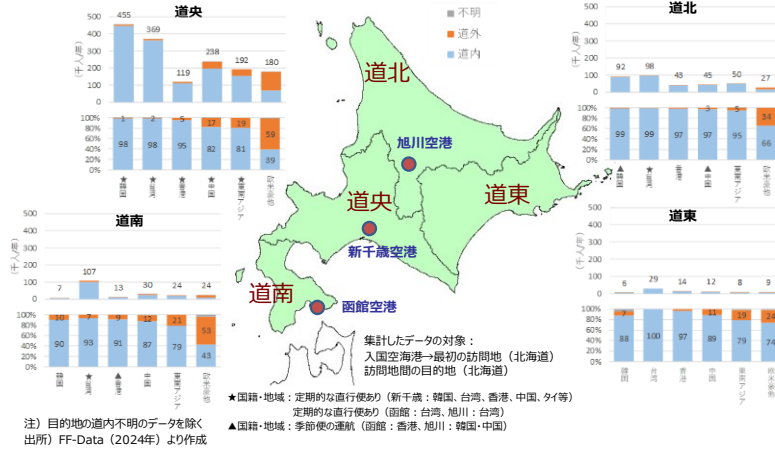
(19) 分析例⑱ 国籍・地域別入込客数（北海道の例）

分析例⑱ 国籍・地域別入込客数（北海道の例）

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 新千歳空港はアジア方面に直行便があり、アジア国籍・地域の道内周遊は 8～9割を占めている。
- 北海道内の空港に直行便がない欧米豪他の旅行者は、道外からの入込客が多い。

図 細分化ゾーン別入込客数と流動状況（2024年）



- 利用データ：公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空港→最初の訪問地（北海道）、訪問地間の目的地（北海道）  
 但し、目的地の道内不明を除く
- 手順：
  - ① 出発ブロックと目的地と国籍集約（9 区分）の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。（東南アジア＝ASEAN、欧米豪他＝ヨーロッパ＋北アメリカ＋オセアニア＋その他）
  - ② 北海道内の目的地（道央/道北/道東/道南）別・国籍・地域別（韓国/台湾/香港/中国/東南アジア/欧米豪他）に出発ブロック（道内＝北海道ブロック/道外＝北海道以外のブロック/ブロック不明）の入込客数及び構成率を集計する。

### 3.4 周遊に関する分析

#### (20) 分析例⑳ 入国空港からの訪問地に関する分析例（上位7入国空港）

#### 分析例⑳ 入国空港からの訪問地に関する分析例(上位7入国空港) 国土交通省

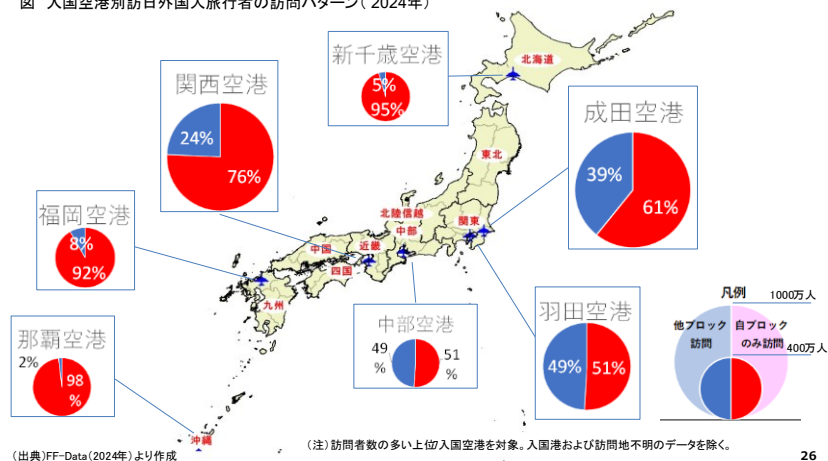
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 入国空港別訪日外国人旅行者の訪問パターンをみると、成田・羽田・関西・中部は約 2～5割が他ブロックへ訪問している。一方、地方空港からの入国者は 9割以上が、自ブロックのみ訪問に留まる。

図 入国空港別訪日外国人旅行者の訪問パターン(2024年)



- 利用データ： 貸出用データベース
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① 入国港が「101：成田空港」「102：関西空港」「103：中部空港」「104：新千歳空港」「111：羽田空港」「121：福岡空港」「128：那覇空港」を抽出する。
  - ② OD フラグが「99：OD 不明」以外を抽出する。
  - ③ サンプル ID 別に出発ブロックと目的ブロックのパターンを整理する。(ここでは、同一サンプル内のブロックがすべて同じ場合、自ブロックのみ訪問に該当する。それ以外は、他ブロック訪問となる。)
  - ④ 7つの入国空港別に、③のパターン（自ブロックのみ訪問/他ブロック訪問）で訪日外国人流動量（年間）を集計し、自ブロックのみ訪問/他ブロック訪問別構成率を集計する。

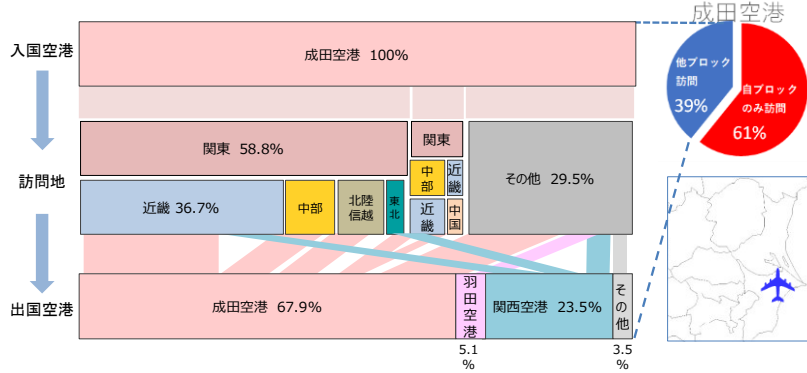
(21) 分析例② 入国空港からの訪問地に関する分析例（成田空港の例）

分析例② 入国空港からの訪問地に関する分析例（成田空港の例）  国土交通省

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 成田空港から入国した訪日外国人旅行者の約 6割は関東ブロックのみを訪問している。
- 成田空港から入国した訪日外国人の約 4割が関東ブロック以外も訪問し、大半は近畿ブロックや中部ブロックを訪問している。

図 成田空港から入国した訪日外国人旅行者の訪問パターン（2024年）



27

- 利用データ： 貸出用データベース
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① サンプル ID 別に入国港が「101：成田空港」のデータを抽出する。
  - ② OD フラグが「99：OD 不明」以外を抽出する。
  - ③ サンプル ID 別に訪問地（目的ブロック）と出国空海港のパターンを整理する。
  - ④ ③のパターン（訪問地と出国空海港の関係）で訪日外国人流動量（年間）を集計し、訪問ブロックの構成率及び出国空海港の構成率を集計する。なお、訪問ブロックの順序は考慮しない。<sup>3</sup>

<sup>3</sup> 成田空港入国→関東ブロック→近畿ブロック→成田空港出国のパターンと成田空港入国→近畿ブロック→関東ブロック→成田空港出国のパターンは、同一パターンとなる。

(22) 分析例② 国籍・地域別の訪問地に関する分析例（出国空港）

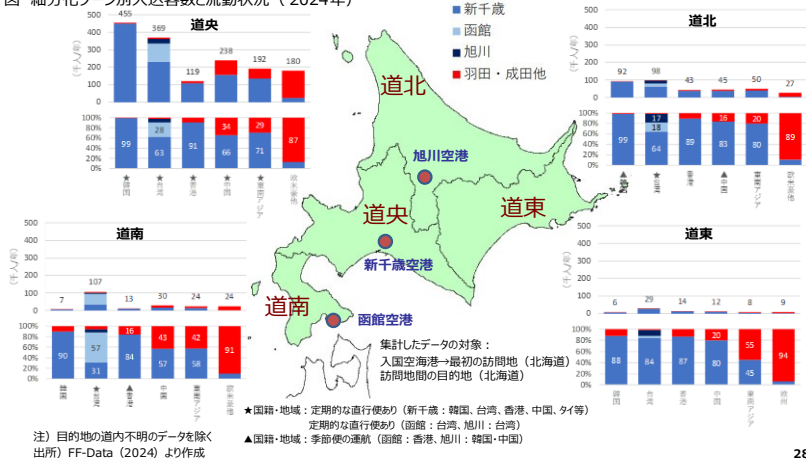
分析例② 国籍・地域別の訪問地に関する分析例（出国空港）



都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- アジア国籍・地域は直行便がある新千歳空港を利用し、台湾は函館・旭川空港も利用している。
- 北海道内の空港に直行便がない欧米豪は、主に成田・羽田空港を利用している。

図 細分化ゾーン別入込客数と流動状況（2024年）



28

- 利用データ： 公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空港→最初の訪問地（北海道）、訪問地間の目的地（北海道）  
 但し、目的地の道内不明を除く
- 手順：
  - ① 目的地が「1：道北」「48：道東」「49：道央」「50：道南」のデータを抽出する。
  - ② 出国空港と目的地（道央/道北/道東/道南）と国籍集約(9区分)<sup>4</sup>の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 北海道内の訪問地（道央/道北/道東/道南）別・国籍・地域別に出国空港（新千歳/函館/旭川/羽田・成田他<sup>5</sup>）の入込客数及び構成率を集計する。

4 欧米豪他とは、ヨーロッパ+北アメリカ+オセアニア+その他を合算。

5 出国空港（羽田・成田他）とは、新千歳空港/函館空港/旭川空港以外のすべての出国空港を合算。

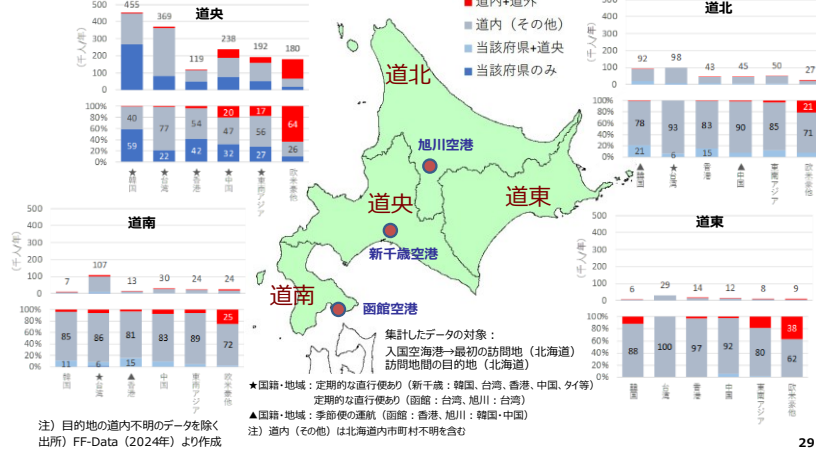
(23) 分析例③ 国籍・地域別の訪問地に関する分析例（国内周遊状況）

分析例③ 国籍・地域別の訪問地に関する分析例（国内周遊状況） 国土交通省

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 新千歳空港等に直行便があるアジアは道内周遊が 7～8割以上を占めている。
- 北海道内の空港に直行便がない欧米豪は道外からの入込客が多い。

図 細分化ゾーン別入込客数と流動状況（2024年）



29

- 利用データ：貸出用データベース
- 対象：入国空港→最初の訪問地（北海道）、訪問地間の目的地（北海道）  
 但し、目的地の道内不明を除く
- 手順：
  - ① 目的地が「1：道北」「48：道東」「49：道央」「50：道南」のデータを抽出する。
  - ② サンプル ID 別に訪問地（出発地と目的地）の国内周遊パターンを整理する。
  - ③ 国内周遊パターン（当該府県のみ/当該府県+道央/道内その他<sup>6</sup>/道内+道外）と国籍集約（9 区分）<sup>7</sup>と目的地（道央/道北/道東/道南）の組合せで、訪日外国人流動量を集計する。
  - ④ 北海道内の訪問地（道央/道北/道東/道南）別・国籍・地域別に国内周遊パターンの入込客数及び構成率を集計する。

<sup>6</sup> 道内（その他）は北海道内市町村不明を含む。

<sup>7</sup> 欧米豪他とは、ヨーロッパ+北アメリカ+オセアニア+その他を合算。

### 3.5 経年的な分析

#### (24) 分析例④ 国籍・地域別 都道府県年間入込客数の推移

#### 分析例④ 国籍・地域別 都道府県年間入込客数の推移

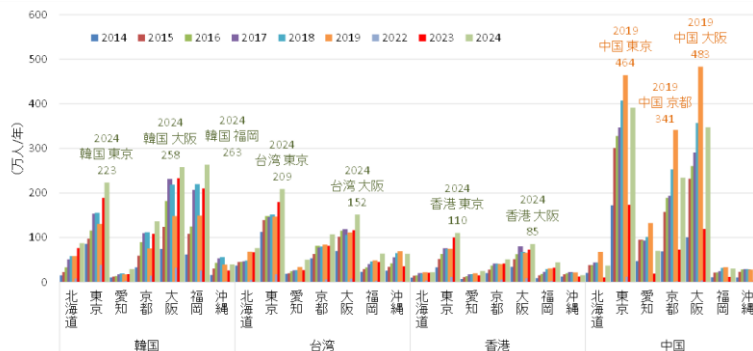
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 韓国・台湾・香港の旅行者は、2024年の東京・大阪・福岡への訪問が多い。
- 中国の旅行者は、2019年の東京・大阪・京都への訪問が多く、コロナ禍からの回復が遅れている。

図 国籍・地域別 都道府県年間入込客数の推移



(注1) 同一都道府県内々の流動、最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明のデータを除く。  
 (注2) 2020-2021年は新型コロナウイルス感染症の影響でデータなし。  
 (出典)FF-Data(2014～2019, 2022～2024年)より作成

31

- 利用データ：公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① ODフラグが「1：県間」を抽出する。
  - ② 目的都道府県と国籍・地域の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 対象とする国籍・地域（韓国/台湾/香港/中国）と目的都道府県（北海道/東京/愛知/京都/大阪/福岡/沖縄）の都道府県年間入込客数を時点別に並べる。

(25) 分析例②⑤ 特定地域の入込客数と地域間流動量（九州の例）

分析例②⑤ 特定地域の入込客数と地域間流動量（九州の例）

都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 九州では福岡県を中心に北部の県間での流動が多いことがわかる。
- 2016年に熊本地震の影響を受け減少した福岡⇄熊本の流動は、回復の傾向が見られる。

図 九州地方の入込客数と県間流動量（2024年）



図 九州地方の県間流動シェアの推移



(注1) 同一都道府県内々の流動及び発着地の都道府県が不明のデータを除く。  
右図のその他は九州地方内々の都道府県間流動量を対象。  
(注2) 2020-2021年は新型コロナウイルス感染症の影響でデータなし。  
(出典)FF-Dataより作成

- 利用データ： 公表用データベース（どちらの sheet も可）
- 対象：入国空海港→最初の訪問地、訪問地間、最後の訪問地→出国空海港
- 手順：
  - ① OD フラグが「1：県間」を抽出する。
  - ② 出発都道府県と目的都道府県の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 対象とする出発都道府県と目的都道府県のペアを抽出する。
  - ④ 対象とする出発都道府県と目的都道府県の県間流動シェアを年次別に集計する。

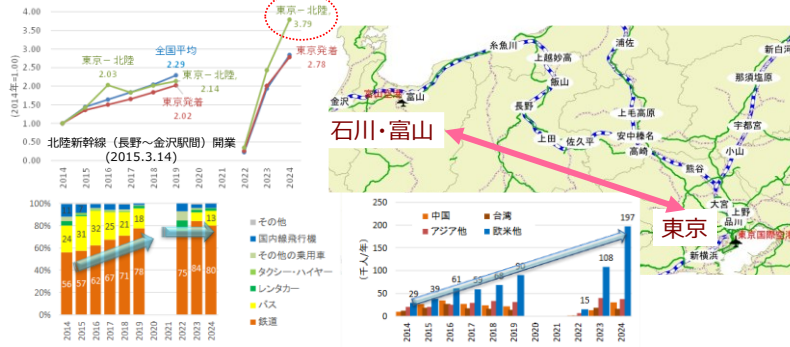
(26) 分析例②⑥ 東京からの流動分析の推移（北陸の例）

分析例②⑥ 東京からの流動分析の推移（北陸の例）

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 北陸新幹線開業以降、東京-北陸（石川・富山）間の流動量は増加傾向で、2024年の流動量は2014年流動量の38倍と大きく増加し、全国平均や東京発着平均を大きく上回っている。
- 利用交通機関別シェアは鉄道が大きく増加している。（2023年以降は8割以上）
- 国籍・地域別流動量は、欧米等の旅行者数が大きく増加している。

図 東京-北陸間の流動分析の推移



(注1) 同一都道府県内々の流動、最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明のデータを除く。交通機関不明を除く。  
 (注2) 2020-2021年は新型コロナウイルス感染症の影響でデータなし。  
 (出典)FF-Dataより作成

33

1) 東京-北陸間の流動分析の推移

- 利用データ： 公表用データベース（どちらの sheet も可）
- 対象： 入国空海港→最初の訪問地、訪問地間
- 手順：
  - ① ODフラグが「1：県間」を抽出する。
  - ② 出発都道府県と目的都道府県の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 対象とする出発都道府県と目的都道府県のペアを抽出する。<sup>8</sup>
  - ④ 年次別に集計し、対2014年比を算出する。

2) 東京-北陸間の交通機関別分析

作成方法(i)

- 利用データ： 公表用データベース（全国籍・機関別 sheet）
- 対象： 訪問地間
- 手順：
  - ① ODフラグが「1：県間」且つ、交通機関が「99：不明」以外を抽出する。
  - ② 出発都道府県と目的都道府県と交通機関の組合せで、訪日外国人流動量（年間）を集計する。
  - ③ 出発都道府県と目的都道府県のペア（東京-石川・富山間）を抽出する。
  - ④ 年次別に交通機関分担率を集計する。

<sup>8</sup> 東京-北陸：東京-石川・富山間、東京発着：東京-東京以外、全国平均：全国の県間ペア合計

#### 作成方法(ii)

- 利用データ：都道府県間流動表（交通機関別OD表の交通機関別 sheet）
- 対象：訪問地間
- 手順：
  - ① 各交通機関別 sheet（交通機関が「99：不明」以外）の国内訪問地（出発都道府県）で、東京都・石川県・富山県を抽出する。
  - ② 各交通機関別 sheet（交通機関が「99：不明」以外）の国内訪問地（目的都道府県）で、東京都・石川県・富山県を抽出する。
  - ③ ①と②を都道府県の組合せ（東京ー石川・富山間）で、交通機関別に集計する。
  - ④ 年次別に交通機関分担率を集計する。

### 3) 東京-北陸間の国籍・地域別分析

#### 作成方法(i)

- 利用データ：公表用データベース（国籍別・性別・年代別・全機関 sheet）
- 対象：訪問地間
- 手順：
  - ① 出発都道府県と目的都道府県のペア（東京ー石川・富山間）を抽出する。
  - ② 年次別に国籍・地域別（中国/台湾/アジア他<sup>9</sup>/欧米他<sup>10</sup>）の訪日外国人流動量（年間）を集計する。

#### 作成方法(ii)

- 利用データ：都道府県間流動表（国籍・地域別OD表の国籍・地域別 sheet）
- 対象：訪問地間
- 手順：
  - ① 各国籍・地域別 sheet の国内訪問地（出発都道府県）で、東京都・石川県・富山県を抽出する。
  - ② 各国籍・地域別 sheet の国内訪問地（目的都道府県）で、東京都・石川県・富山県を抽出する。
  - ③ ①と②を都道府県の組合せ（東京ー石川・富山間）で、国籍・地域別に集計する。
  - ④ 年次別に国籍・地域別（中国/台湾/アジア他/欧米他）の訪日外国人流動量（年間）を集計する。

<sup>9</sup> アジア他：韓国・香港・東南アジア

<sup>10</sup> 欧米他：ヨーロッパ・北アメリカ・オセアニア・その他

【参考】空海港と都道府県の対応表

港コード	港名	県コード	県名	港コード	港名	県コード	県名
101	成田空港	12	千葉	121	福岡空港	40	福岡
102	関西空港	27	大阪	122	佐賀空港	41	佐賀
103	中部空港	23	愛知	123	長崎空港	42	長崎
104	新千歳空港	1	北海道	124	熊本空港	43	熊本
105	旭川空港	1	北海道	125	大分空港	44	大分
106	函館空港	1	北海道	126	宮崎空港	45	宮崎
107	青森空港	2	青森	127	鹿児島空港	46	鹿児島
108	仙台空港	4	宮城	128	那覇空港	47	沖縄
109	秋田空港	5	秋田	129	石垣空港	47	沖縄
110	茨城空港	8	茨城	130	北九州空港	40	福岡
111	羽田空港	13	東京	131	山口宇部空港	35	山口
112	新潟空港	15	新潟	132	花巻空港	3	岩手
113	富山空港	16	富山	133	高知空港	39	高知
114	小松空港	17	石川	134	下地島空港	47	沖縄
115	静岡空港	22	静岡	201	博多海港	40	福岡
116	米子空港	31	鳥取	202	下関海港	35	山口
117	岡山空港	33	岡山	203	厳原海港	42	長崎
118	広島空港	34	広島	204	境海港	31	鳥取
119	高松空港	37	香川	900	その他空海港	99	不明
120	松山空港	38	愛媛	999	不明空海港	99	不明

【参考】都道府県とブロックの対応表

県コード	県名	ブロック コード	ブロック 名	県コード	県名	ブロック コード	ブロック 名
1	北海道	1	北海道	25	滋賀県	6	近畿
2	青森県	2	東北	26	京都府	6	近畿
3	岩手県	2	東北	27	大阪府	6	近畿
4	宮城県	2	東北	28	兵庫県	6	近畿
5	秋田県	2	東北	29	奈良県	6	近畿
6	山形県	2	東北	30	和歌山県	6	近畿
7	福島県	2	東北	31	鳥取県	7	中国
8	茨城県	3	関東	32	島根県	7	中国
9	栃木県	3	関東	33	岡山県	7	中国
10	群馬県	3	関東	34	広島県	7	中国
11	埼玉県	3	関東	35	山口県	7	中国
12	千葉県	3	関東	36	徳島県	8	四国
13	東京都	3	関東	37	香川県	8	四国
14	神奈川県	3	関東	38	愛媛県	8	四国
15	新潟県	4	北陸信越	39	高知県	8	四国
16	富山県	4	北陸信越	40	福岡県	9	九州
17	石川県	4	北陸信越	41	佐賀県	9	九州
18	福井県	5	中部	42	長崎県	9	九州
19	山梨県	3	関東	43	熊本県	9	九州
20	長野県	4	北陸信越	44	大分県	9	九州
21	岐阜県	5	中部	45	宮崎県	9	九州
22	静岡県	5	中部	46	鹿児島県	9	九州
23	愛知県	5	中部	47	沖縄県	10	沖縄
24	三重県	5	中部	99	不明	99	不明

## 4. よくある質問・用語集

### 4.1 よくある質問

#### ● サンプルはどうやって収集しているのか？

空海港において、日本から出国する外国人に対して調査員による聞き取り調査を実施しています。

#### ● 行きと帰りはどのように集計されているのか？

訪問地間の移動については出発地と目的地という考え方はありますが、行きと帰りという概念はありません。本データの訪問地情報の取得方法は、元データとなる「国際航空旅客動態調査」、「訪日外国人消費動向調査」に記入されている訪問地を都道府県単位に分類した上で集計しています。そのため、例えば1回の旅行で、ある都道府県を2回訪問したと記入されている場合は、都道府県間流動表ではその都道府県を2回訪問したこととして集計しています。したがって、都道府県別の入込客数を都道府県間流動表から集計する際には、同じ人を複数回カウントしている点があることにご注意願います。

#### ● OD表で数値が「0.0」のセルと空欄のセルは何が違うのか？

空欄のセルは、そのOD表の分類（国籍・地域、利用交通機関）では該当するサンプルが得られなかったODであり、「0.0」のセルは流動量が1人以上49人以下のODです。

#### ● 四半期拡大係数と年間拡大係数が同じ数値のものと違う数値のものがあるのはどういうことか？

「訪日外国人消費動向調査」は四半期別に調査を行っていますが、「国際航空旅客動態調査」は年に2回しか調査を行っていません。そのため、「訪日外国人消費動向調査」対象空海港は、四半期別の値を合計すれば年間値となりますが、「国際航空旅客動態調査」のみ対象空港は、四半期別の値を推計できないため、四半期拡大係数と年間拡大係数が異なります。

#### ● 貸出用データで、滞在日数と宿泊数はどう違うのか？

滞在日数は訪日外国人が日本国内に滞在した日数、宿泊数は訪問地に宿泊した日数を示しています。

## 4.2 用語集

- 拡大係数  
得られたサンプル情報から全数を推計するための係数のことです。
- トリップ  
人がある目的をもって、ある地点からある地点へ移動する単位をトリップと表します。
- トリップチェーン  
サンプル毎の入国空海港から国内訪問地、出国空海港までの一連のトリップの情報のことです。サンプル毎の周遊を把握することができます。
- OD  
ODとは、出発地 (O: Origin) と目的地 (D: Destination) の間のことです。
- OD表  
上記のODを表形式で整理したものです。
- サンプルID  
入手したサンプルを便宜的にIDを付したものです。
- トリップNo  
あるサンプルが入国から出国までの間に行ったトリップに順番を付したものです。
- トリップ数  
サンプル別のトリップの数です。入国後、5箇所を訪問していた場合トリップ数は5になります。